

印刷会社による、農業での地域貢献を！ (たとみ農園株式会社)

＜法人の概要＞ 所在地：山梨県中央市

設 立：平成 23 年 4 月

資本金：300 万円 売上高：170 万円（平成 24 年）

（うち農業及び農業関連事業：170 万円）

役 員：1 名（うち農作業従事 1 名）

従業員数：常時雇用者 1 名（うち農業従事者 1 名）

経営面積：1.1ha 営農作物：水稻、野菜等

農業開始時期：平成 23 年 6 月



収穫期の稲



中央市の奨励品種「ヒノヒカリ」

＜農業参入に至った経緯・動機＞

- ・当社の親会社は、明治 41 年（西暦 1908 年）から地元で印刷業を営む（株）アドヴォネクストである。（株）アドヴォネクストの会長は、長年植林活動（OISCA）に取り組んでおり、会社の理念の根底には、社会貢献・エコ活動がある。
- ・そのような中、二酸化炭素削減のために農作物の残さから紙を作りたいという思いが沸き立ち、山梨県に相談したところ、（株）アドヴォネクストには農作物の栽培技術が未だないため、まずは栽培技術を身に付けてはどうかと提案を受け、平成 20 年から社員が個人的に体験農園を行ってみることとした。
- ・そして、その体験農園での農作業中に、近隣の農業者から「農地を借りて欲しい」という話があったため、（株）アドヴォネクストは、当社を立ち上げ、農業に本格参入することとした。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

- ・農地については、面積の半分は農業委員会のあっせんを受け、残り半分は自ら相対で相手を見つけて借り受けた。
- ・作物の決定や栽培技術については、初めは農業経験が全くなかったため、地元の農事組合法人「た・から」の組合員から指導を受けた。
- ・設備については、軽トラ、管理機等を自前で購入し、補助事業は活用しなかった。

＜営農開始から現在まで＞

- ・収穫した米の販路については、(株)アドヴォネクストの「スマイル」という冊子に販売用チラシを挟み、申し込みがあった方に販売したほか、米屋に直接販売した。
- ・栽培技術については、引き続き、近くの圃場で営農している「た・から」の組合員から指導を受けている。また、稲刈りや乾燥等、委託できる部分は「た・から」で知り合った方に委託している。
- ・地域への配慮として、食育を目的として保育園児の農業体験の取組を平成 24 年から開始し、地産地消の大切さなどを伝えている。
- ・苦労した点は、農業経験が少ないため、農作物が天候等により受ける影響がわからず周囲の助けがなければ営農が難しかったことと、夏の繁忙期には草取りに追われる等、担当者 1 人ではなかなか農作業の手がまわらないことである。

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・経営規模については、基本的に拡大していくつもりであるが、すぐに拡大できるほどの売上はない状態である。
 - ・まず売り先の確保が重要と考えるため、現在、海外向けの販路を開拓中であり、今後は、付加価値を高めた農作物を栽培したい。
- また、当社社長は老人ホームの施設長でもあることから、今後は老人ホーム等とのネットワークも広げたい。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

- ・弊社の水稻は、慣行栽培と比較して低農薬栽培を行っている。また、印刷業としてのノウハウを生かし、売り先や売り方を工夫することで付加価値をつけ、販売単価を高めることができると考えている。
- ・このため、企業の持つノウハウを生かし、どう付加価値を高めて売るのが重要と考える。



保育園児の農業体験



園児が田植えをする様子